

熊本県におけるIPMの取組み

～施設栽培メロンにおけるメロン退緑黄化病対策～

①IPM技術の背景

- ・メロン栽培において、タバココナジラミが伝搬するウイルス病(メロン退緑黄化病)が発生。
- ・薬剤防除だけではウイルス感染を完全に防止することができない。
- ・タバココナジラミに効果の高い薬剤が少ない。

→化学的防除と物理的防除を組合わせた総合的な防除対策が重要

②IPMのポイント

タバココナジラミとウイルスを

- 1 施設に「入れない」(物理的防除:防虫ネットやUVカットフィルム等)
- 2 施設で「増やさない」(化学的防除:薬剤防除)
- 3 施設から「出さない」(物理的防除:密閉蒸し込み処理)

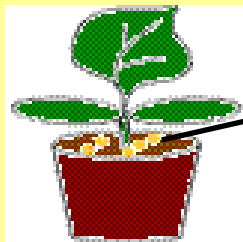
1 育苗時の対策 ～「入れない」、「増やさない」対策～



UVカットフィルム

二重扉

0.4mm目防虫ネット



定植2～3日前にニテンピラム粒剤、又はジノテフラン粒剤を株元処理



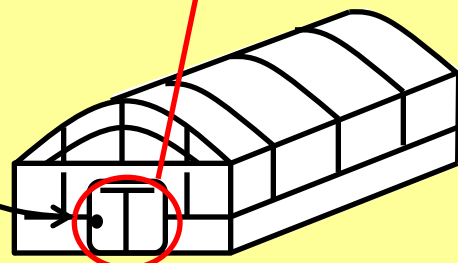
タバココナジラミ

2 運搬時の対策 ～「入れない」対策～

苗を運ぶ時は、運搬車を防虫ネットや幌で覆う。



定植等の作業中は、扉を必ず閉める

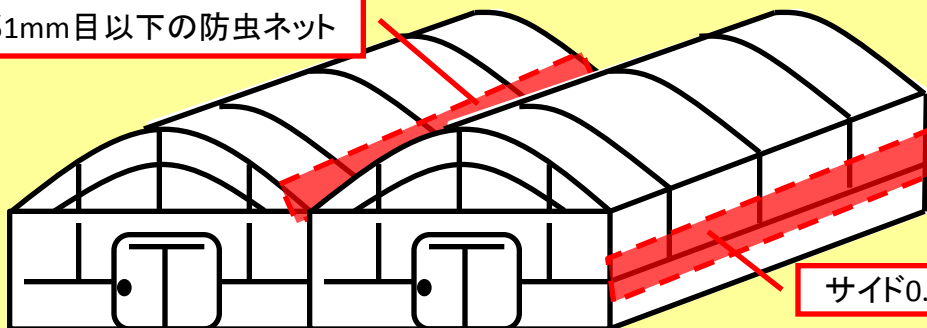


③ 定植後の対策 ～「入れない」「増やさない」「出さない」対策～

入れない

谷部1mm目以下の防虫ネット

※ 受粉にミツバチを使用する場合は、飛翔に影響するため、UVカットフィルムは使用できない。



ウイルス感染が疑われる苗は定植しない。

サイド0.4mm目防虫ネット

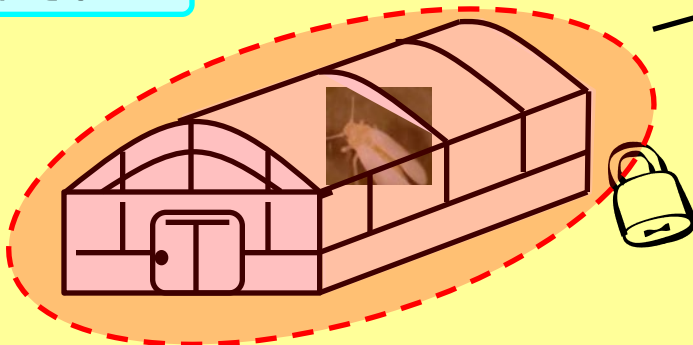
増やさない



適切な薬剤散布

- ・散布むらが発生しないように丁寧に散布する。
- ・薬剤抵抗性が発達しないように、同一系統の薬剤を連用しない。
- ・交配直前にタバコナジラミに効果の高いピリダベンフロアブルを散布する。

出さない



- ・栽培終了後、直ちに密閉し、蒸し込むことで、タバコナジラミの野外への飛び出しを防止する。
- ・メロンを枯死させることで、ハウス内のウイルスを死滅させる。

③IPM導入にあたっての注意点

- ・防虫ネットの設置によりハウス内の温度が上昇するので注意する。
- ・ウリ類の栽培は地域内にさまざまな作型が存在するため、野外のウイルスを持った虫の密度を高めないうち地域全体で取組むことが重要。